

# シリーズ 中学校武道

## 授業の充実に向けて

139

つまずきをどう克服したか③  
(生徒が計画・実行、学び合う「なぎなた授業」)

### 学校法人仙台育英学園秀光中等教育学校

学校法人仙台育英学園・秀光中等教育学校は2018年(平成30)、世界約5300校が加盟する教育プログラム「国際バカロレア(IB)」の認定校となった。IBの目指す探究型授業を展開するため、全ての授業は、個人学習に加えてペアワークやグループワークなどで効果的なチームワークと協働を生徒に促していく授業になった。

一方、学園創立者の唱える「至誠力行」のもと、秀光中等教育学校は、2003年(平成15)の開校以来、授業になぎなたを取り入れている。

1996年(平成8)、秀光中学校として開校し、その後、2003年(平成15)東北初の中高一貫校として改編。2021年(令和3)4月「秀光中学校」に組織改編し開校予定。今回は本誌記者の取材をもとに、生徒が計画・実行し、そして教え合う秀光中等教育学校でのなぎなた授業を紹介する。

### 1 建学精神「至誠」に基づく「なぎなた授業」

同学園の歴史は、1905年(明治38)に創立者・加藤利吉が宮城県仙台市に私塾「育英塾」を開いたことに始まる。そして2003年(平成15)に学校法人仙台育英学園として秀光中等教育学校(以下、秀光中)が開校した。校舎はグループ校の仙台育英学園高等学校(以下、仙台育英)と共用しており、仙台駅から東に約2キロ、

プロ野球東北楽天ゴールデンイーグルスのホームグラウンドもほど近い。そんな秀光中では創立者が唱えた建学の精神「至誠」の実現のため、開校以来17年にわたり、女子生徒に対してなぎなたの授業を行っている。

小学3年生からなぎなたを続けている庄司ちひろ教諭は、2009年(平成21)に秀光中に着任。自身も仙台育英の出身である。保健体育では熱意を持ってなぎなた授業を行っていた。教師を始めた当時は教員が生徒を指導する一般的な授業スタイルであった。

2015年(平成27)、仙台育

### 2 国際バカロレア認定校の秀光中

英が東北で初となる国際バカロレア(IB)認定校に決定。秀光中もIB認定校を目指していた。いったん教壇を離れた庄司教諭は2017年(平成29)に秀光中に再着任。4年のブランクの間に全ての授業スタイルが激変していたことに驚いた。

国際バカロレア(International Baccalaureate)とは、国際バカロレア機構(本部|スイス・ジュネーブ)が提供する国際的な教育プログラム。

同機構は、1968年、インターナショナルスクールの卒業生に、国際的に認められる大学入学資格(国際バカロレア資格)を与え、大学進学へのルートを確保するとともに、学生の柔軟な知性の育成と国際理解教育の促進に資することを目的として発足した。認定校に対する共通カリキュラムの作成や、国際バカロレア試験、国際バカロレア資格の授与等を実施している。

その学習プログラムには、11〜16歳を対象としたMYP(Middle Years Programme)と16〜19歳を対象としたDP(Diploma Programme)などがある。現在、世界153以上の国・地域、



学校法人仙台育英学園・秀光中等教育学校



秀光中のホームページより

### 3

### IB認定校でのなぎなた授業

近年、IBはグローバルスタンダードな大学入学のための資格として、その存在価値を高めており、秀光中も2018年にIBの認定校となった。

5311校において実施されており、米・ハーバード大学、英・オックスフォード大、ケンブリッジ大など世界の名門大学でも大学受験資格として採用されている。

国内では、文部科学省が推進体制の整備のため平成30年にIB教育推進コンソーシアムを立ち上げ、IB認定校数は現在150校となる(スポーツ庁ホームページより)。大学でも入試にIB資格を活用する大学が増えており、地元の国立、東北大学でも一部入試で活用を始めた。

庄司教諭が再着任した2017年は、秀光中が正式認定される直前であり、全ての授業はIBのMYPへと様変わりしていた。柔軟

### 4

### なぎなた授業の実際

な知性の育成のため、授業は従来の「教員から生徒への指導」から、生徒同士の教え合いを重視した「ペアワークやグループワーク」へと変わり、教員の発言は時間内の3分の1に制限され、1クラスあたりの生徒数も限定されていた。庄司教諭は、その様変わりぶりに戸惑いながらも、MYPに基づくなぎなた授業に取り組んだ。前任のなぎなた指導の教諭と摺り合わせながらなぎなた授業の新たな教案を構築。生徒主体といえども、授業をすべて生徒に任せるわけにはいかない。このため授業のゴールと時間数は明確に伝え、生徒が戸惑いを見ればその都度助言や補佐に当たった。授業後、保健体育科教員内で改善点を話し合い、より精度を高めた。

取材当日は、中学3年生の女子2クラス10名に対する9・10コマ目(計90分)の授業が体育館で実



初めに、クラス代表が本日の授業内容を発表



### 1 対多数のフォーメーションを考える生徒たち



扇形に広がっての上下振り



## 生徒による学び合い

算しながら進めてください」と念を押したのだ。

3年生の目標はリズムなぎなたの完成で、2年生は全日本なぎなた連盟のしかけ応じ一本目～五本目の計画・実践。なぎなたに慣れていない1年生は礼儀・立ち方・歩き方など、基本を行っているとのことだ。学年が進むにつれ生徒自身の計画性・創造力・実行力・主体性がより必要とされるのがよくわかる。

「今年、生徒たちは予想以上に頑張っています」と感想を述べる庄司教諭。自分で計画を立て、振り返りまで記すことによって生徒は

う。課題は、生徒が計画することによって授業の進行に時間がかかるようになったこと。5コマ目あたりで生徒たちも焦り出していたそう。その都度、ペースアップを促したという。再び、授業の様子に戻ろう。

いる。各クラスが一つのグループを構成（1グループ5名）。それぞれグループになぎなた部員1名がおり、その生徒がリーダーとなつて振り付けなどを提案し、グループで全体の流れを話し合いながら決定していく。リズムなぎなたの選曲は、1組がサカナクションの「新宝島」、2組が嵐のラヴピー2019イメージソング「BRAVE」だ。

1組では、曲にあわせて全員で上下振りが繰り返される。2組では1対多数でのフォーメーションを話し合っている。「扇形に広がってみようか」。なぎなた部のリ

「ダーの提案を受けて、扇形に広がって上下振りなどが試行錯誤されていく。

なぎなたの振り方で戸惑っていた2組に対して、庄司教諭がここでサポート。「振り方はこう。同時に大きな声で『メン!』。庄司教諭の張りがある声が体育館に響き渡り、空気もピリッと一変する。要所で庄司教諭が振り方などをサポートしたり、何本目の形を入れたらいいかなど、なぎなたの専門的な内容を助言した。2組では上手くなぎなたを操作できない生徒1名に対してリーダーが個人指導。残りの3人はリズムなぎな

## 生徒による実際の実践計画書

年　　組　　番　氏名

お題 「Bounce」(風)
」

男子・(女子)      2 班      マーナー

※ 完成までは10時間(2時間授業×5日)とする。  
 ※ 考えも場合はPCを使っても良い。

|                  | 日付             | 自分が考えた計画  | グループ内で話し合った計画 | 実際の実行内容                  | 振り返り                         |
|------------------|----------------|-----------|---------------|--------------------------|------------------------------|
| <b>実践<br/>内容</b> | 1/4<br>15<br>日 | リズムダンスの準備 | 曲探し           |                          |                              |
|                  |                | 曲探し       | 曲の探し方について     |                          |                              |
|                  | 1/8<br>(日)     | 振り付け      | 曲3 振り付け①      | 振・練習                     | 今まで振り付けの練習がなかった。練習の振り付けができた。 |
|                  |                | 確認        | 確認            | ↓<br>今 振り付け              | 音に合わせて振り付けを確認し、見えていないところを修正。 |
|                  | 1/12<br>(水)    | ↓         | 振り付け②         | 振り付け                     | 振り付けの練習ができた。振り付けの確認ができた。     |
|                  |                | 確認        | 確認            | ↓                        | 振り付けの確認ができた。振り付けの確認ができた。     |
|                  |                | ↓         | 振り付け③         | 振り付け                     | 振り付けの確認ができた。振り付けの確認ができた。     |
|                  |                | 確認        | 確認            | ↓                        | 振り付けの確認ができた。振り付けの確認ができた。     |
|                  |                | ↓         | 振り付け④         | 振り付け                     | 振り付けの確認ができた。振り付けの確認ができた。     |
|                  |                | 確認        | 確認            | ↓                        | 振り付けの確認ができた。振り付けの確認ができた。     |
| 1/16<br>(日)      | 合奏             | 通し 確認     | 振り付け          | 振り付けの確認ができた。振り付けの確認ができた。 | 振り付けの確認ができた。振り付けの確認ができた。     |
|                  | 合奏             | 通し 確認     | 振り付け          | 振り付けの確認ができた。振り付けの確認ができた。 | 振り付けの確認ができた。振り付けの確認ができた。     |

「試合・リズムなぞいた」      の完成！！

リーダーではない生徒の計画書。技をリーダーに教えてもらいながら、振り付けを自分で考えている様子がわかる

[illegible]

リーダー（なぎなた部）の計画書

施された。教員は庄司教諭と平塚好伸教諭の2名。武道授業は全て両教員が担当している。隣では、別の保体教員2名によって同年の男子約20名に対するダンスの授業が行われていた。

秀光中では19年度より、建学精神に基づいて中学1年男子も武道はなぎなたを開始しており（2・3年男子は剣道）、2年後には、男女とも武道はなぎなたを実施する計画である。

男女合同の準備体操後、女子は稽古着・袴はかまに着替えて再び集合。道着は各自で準備し、形用のなぎなたは学校が用意している。生徒の手にはそれぞれ授業の実践計画を記したプリントがある。「今日は、振り返し、歩み足、1対多数の練習をして、『リズムなぎなた』を完成させます」。各クラスの代表がそれぞれ本日の授業内容を発表する。それに対して庄司教諭が「はい、残り60分なので逆算しながら進めてください」と助言。驚いたことに各回の実践内容は、生徒自身が計画しているのだ。

5

## 生徒による実践計画

「MYPのなぎなた授業」ということで、18年度までは教員が実施内容を計画し、生徒間での教え合うという流れで行っていました。19年度はさらに踏み込んで、バスケットボール授業などと同様、生徒が実践計画を練り、発表会までやることにしました」と庄司教諭。

より主体的な実行力に繋<sup>つな</sup>げるため、生徒による実践計画の作成を提案したところ、同僚の保体教員も賛同したという。

生徒には初めに10時間分（2コマ授業×5日間）の授業のゴール（リズムなぎなたの完成）を示し、白紙の実践内容計画書を配布する。各自で10時間分の計画を立て、次にグループ内で話し合っ授業内容を決め、授業を实践する。授業後に実践内容を記し、それを振り返るという流れだ。授業での時間配分なども自分たちで考える。このため、庄司教諭が「逆



生徒が計画し・話し合いながら実践していく秀光中のなぎなた授業。なぎなたの振り方など技術面は、時が経つにつれて忘れてしまいかもしれない。しかし、自分たちで計画し、試行錯誤を繰り返しながら実践に繋げたことは、きつと大きな自信となり、これから遭遇する様々な局面で役立のではないだろうか。

## まとめ

8

(5)指導補助の生徒（なぎなた部）  
がない場合について  
クラスになぎなた部の生徒がない場合は、初めになぎなたの動画を視聴しながら学習させる。まずは授業のレベルを下げ、実践するうちに生徒に発見をさせ、興味を持たせて主体的に課題を追究させていく。その学年、クラスで生徒が取り組めるものを目指したいとのことだ。

のきつかけとなったという。

たの作成にあたっては、1組では1対多数のフォーメーションが練られていた。1列に並んでいた2名が下がり、もう2名が逆方向に進んで四角形となつて残りの1名と向き合う形のようにした。  
「あと30分です。そろそろ仕上げに入ってください」。庄司教諭が大きな声で生徒に伝える。リズムなぎなたでは、各所の振り付けに決まった形はないため、生徒は試行錯誤を繰り返して、悩みながらゆつくりと進行していく。1組では、リズムに合わせて、1対多数になるまでの足の運び方に苦戦していたが、最後は全員がピタリと噛み合った。リーダーが満面の笑みを浮かべていた。  
合計90分の授業が終わり、1、2組ともリズムなぎなたが概ね完成した。次回は担当教員の前で発表会を行う（本来はこの日で授業が終了する予定であったが、時間割調整をして2時間追加した）。終了後、生徒に授業の感想を聞いた。

7

## MY Pによるなぎなた授業に対する教員の考え

取材中に感じたことを庄司教諭に伺った。

(1)授業の進行状況について

生徒が計画し主体的に授業を進

▽1組リーダーの生徒

「自分たちで計画して作り上げていくので大変でした。形や技の説明・提案は自分でしましたが、それをどのように組み立てていくのかはみんなで話し合っていて決まっていきました」

▽2組リーダーの生徒

「基本動作などをみんなに教えることで逆に自分にも発見がありました。なぎなたに対してさらに向き合うことができました」

▽2組生徒

「なぎなたは苦手意識がありました。他の子が教えてくれたのでそれは消えたと思います。みんなが誉めてくれるので一人でやるより楽しいです」

また、IBで培われた国際的な視点や語学力を生かし、将来、海外で武道の魅力を広めてほしいとの期待も膨らむ。  
最後に、なぎなた授業で生徒に学んでほしいことや秀光中の目指すなぎなた授業について庄司教諭、平塚教諭に聞いた。

●庄司ちひろ教諭



「道着・袴を着用するのこういう機会がないとできないこと

とで、主体的に学ぶことの楽しさを生徒に感じてほしい、礼儀や作法などなぎなたで学んだことを他の教科でも生かしてほしいです。次年度もこのスタイルで指導していきたいと思っています」

●平塚好伸教諭



「秀光中等教育学校のなぎなた授業は、生徒が計画して学び

合いながら実践していく授業です。生徒には学び合いながら課題を解決する喜びを感じてもらいたいと思います」

（文）長澤克成 写真）石井政利

## 柔道整復師の国家試験対策予備校

受験生の学習スタイルに合わせたコースをご用意しております。

### 昼間コース

週6日午前中の通学で徹底対策

### 夜間コース

週3日夕方からの通学で徹底対策

### 日曜コース

月2回、日曜日に徹底的に国試対策

### 通信制コース

通学しなくてもできる国試対策

### ジャパン模試

【柔道整復師 国家試験出題基準】に沿った模試問題です。東京・大阪・仙台・名古屋では会場を設けて実施しております。

株式会社ジャパン国試合格

代表取締役 三田 利幸  
校長 樗澤 隆治



東京都港区芝浦4丁目12-44 芝浦TMビル7階  
JR山手線・京浜東北線『田町駅』下車

TEL : 03-5287-6301  
FAX : 03-6809-6670  
MAIL : info@jkokushi.jp

http://www.jkokushi.jp/  
詳しくはこちらから▶



めるため、知識の理解は深まるが、その反面、教員の指導に比べて習熟のスピードが遅いように見受けられた。

この点を庄司教諭に伺うと、「確かに遅れがちであるので、随時、進捗状況をチェックして声がけを行い、ペースアップを図っています」。また多少のコマ数の調整は可能だという。実際に19年度は12コマとなった。

(2)安全面について

長モノの武具を振り上げるなぎなた授業では生徒同士の教え合いで安全は確保されるのかという不安も残る。これについて庄司教諭は「授業の前に、長モノの危険性を生徒に認識させ、振る際は前後左右の安全を確認するように説明します」と説明。加えて、教員が指導に入らない分、視野が広がって全体を俯瞰でき、危険な場面をすぐに察知できるという。

(3)IBと学習指導要領の評価基準について

IBの授業では、活動の計画

性、実行と改善などその評価基準となる。MY Pの評価基準と学習指導要領の評価基準で齟齬（そご）がないのか気になった。庄司教諭は「双方の評価の観点を結びつけて行うようにしている。むしろ、新学習指導要領が重視している主体的に学び『生きる力』を涵養（かんよう）することはIBと合致する点が多いと思います」と語った。

(4)武道とIBの矛盾点について

相手を思い敬う武道の考えと各自が主体性を持つて行動するIBは、相反するもので矛盾しないのだろうか。授業実施前に記者が抱いていた疑問に対して、庄司教諭は「生徒は相手を敬いながら主体的に取り組んでいるので、矛盾はありません」ときっぱり。授業中の生徒の態度や感想からも確かに相手を気にかけてながらも積極的な様子が感じ取れた。

MY P初年度となった19年度では、教え合いの中で生徒間の意見の衝突もあったという。その件は、互いの意見を尊重し、一つのものを作り上げるという協働学習